

最近、特に夜間中の数学授業のモットーは「習うより慣れよ」ではなく、「急がば回れ」、だと強く思うようになりました。「急がば回れ」このことわざは、平安時代の歌人源俊頼かまたは室町時代の連歌師宗長（そうちょう）が詠んだとされる和歌



「武士のやばせの舟は早くとも急がばまわれ瀬田の長橋」

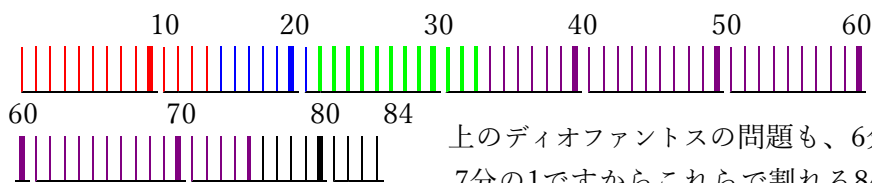
瀬田の唐橋

に由来すると、江戸時代のはなし本「醒睡笑（せいすいしょう）」に書かれているとのことです。武士は（もののふ）と読みます。その意味は、江戸時代の宿場（東海道五十三次）、草津宿から琵琶湖を挟んだ対岸の大津宿に行くには、一直線に渡し船（やばせ（八橋）の渡し）で湖上に行くのが、見たが目近く、早く思えても、比叡山から吹き下ろす強風（比叡下ろし）がある時には、なかなか進まず最悪の場合は遭難の危険もあるため、遠回りでも陸路で瀬田橋（瀬田の唐橋 日本三大名橋のひとつ）を通る方が確実に早いということです。実際の距離は水路約3km ,陸路 13km 気候の温暖な春、夏なら水路が圧倒的に早いようですが、冬の比叡下ろしの突風があるときは危険なようです。同じように数学が苦手という多くの人にはある特徴があります。一気に、頭の中で答えを出そうとすることです。簡単な、ワンステップ、ツーステップで出来る問題ならいいのですが、そうはいかない少し難しい問題となると、頭の中で固まってしまう。コンピュータのフリーズ状態です。これで、数学が出来ないと思込んでいる人が多いのですが、それはほとんどの人がそうなるのです。私などは、一步一步書かないと、大抵、答えが間違えます。なかには、暗算でパットできる人もいます。四年前亡くなった有名な英国の車椅子の天文学者スティーブン・ホーキング博士は、難病で鉛筆も持てないため、膨大な天文学物理の計算をすべて頭の中でやっていたということです。しかし、それが出来ないからと数学が苦手というのは、100メートル競走で10秒を切れないから、自分は足が遅いと思込込むのと同じだと思います。回り道に見えても、しっかり理解して、ゴールに到達すればよいのです。同じような諺は「急いてはことを仕損じる」などがあります。英語では " Slow and steady wins the race." " Haste makes waste." などがあります。

それでは、33号ディオファントスの問題をゆっくり、図を書いてやってみましょう。

ディオファントスの人生は6分の1が少年期，12分の1が青年期で，その後人生の7分の1が経って結婚し，5年で子が生まれた。しかしその子はディオファントスの半分しか生きずに亡くなった。その4年後にディオファントスも亡くなった。

ディオファントスが何歳まで生きたかを求められますか？



上のディオファントスの問題も、6分の1,12分の1,7分の1ですからこれらで割れる84の目盛りを書くと

84の6分の1が14,12分の1が7,7分の1が12,半分が2分の1で42 合計14+7+12+42=75
それ以外がちょうど9年なので、ディオファントスが84歳まで生きたとわかります。
ゆっくり書いて、数えても、慌てなければ5分程度。十分、数学検定でも間に合います。